

令和2年度 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



YURIKAGO 通信

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 《8月号》

R2. 7. 31 東京ゆりがご幼稚園



1学期終了に際し ～幼児教育の原点に立ち返る～

園長 内野 彰 裕

本日、1学期が終了致しました。今年度は4月・5月の休園を経て、6月からの保育となったこともあり、例年より遅い終業式となりました。1学期は幼稚園における新しい生活様式を模索する中で、「密を避ける」、「手洗い・消毒の徹底」、「マスクの着用」など、難しい課題もたくさんありました。しかし、ご家庭で指導いただいたおかげで、子どもたちは意識を持って取り組んでいました。保護者の皆様のご協力に感謝すると共に、子どもたちの姿勢とがんばりを心から褒めてあげたいと思います。

また、「幼稚園における新しい生活様式」は、子どもの成長にとって決してマイナスな事ばかりではありませんでした。幼稚園では、これまで当たり前のように行ってきた生活のルーティンを見直すきっかけにもなり、園生活で大切にすべき事柄を、優先順位をつけて取捨選択し、生活の流れをシンプルにすることで、子どもたちは行動しやすくなったことと思います。また、日常の遊びや活動の時間をじっくりとれるようになったことで、これまで以上に遊びに没頭することができ、活動に集中する姿が見られるようになりました。そして心が満たされ、友達同士の関係もさらに良好になってきていると感じます。

幼稚園における新しい生活様式を探る中で、幼児教育の原点に立ち返り、子どもの成長にとって本当に必要な事、普遍的な物を再確認する機会になったと考えています。



暑い日は朝から水着に着替え、水遊びをたっぷり楽しみ、心も身体も解放する。

明日から夏休みに入ります。幼児期の夏休みの体験は大きくなってからも記憶の奥底に残ります。今年は例年通りの夏休み・・・とはなりません、人混みを避けて身近な自然に出かけるのはいかがでしょうか？ 子どもにとっては遠方でなく身近な場所であっても、「そこで誰とどのように過ごし、どのように感じたか」の方が大切なのだと思います。

レイチェル・カーソンは、保育者にとってのバイブルである著書「センス・オブ・ワンダー」の中で、次のように述べています。

生まれつきそなわっている子どもの「センス・オブ・ワンダー…神秘さや不思議さに目を見はる感性」をいつも新鮮にたまらなく感じるためには、わたしたちが住んでいる世界のよろこび、感激、神秘などを子どもといっしょに再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいる必要があります。多くの親は、熱心で繊細な子どもの好奇心にふれるたびに、さまざまな生きものたちが住む複雑な自然界について自分がなにも知らないことに気がつき、しばしば、どうしてよいかわからなくなります。そして、「自分の子どもに自然のことを教えるなんて、どうしたらできるというのでしょうか。わたしは、そこにいる鳥の名前すら知らないのに！」と嘆きの声をあげるのです。わたしは、子どもにとって

も、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。子どもたちがであう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけた知識は、しっかりと身につきます。（『センス・オブ・ワンダー』より）

この夏は、お子様と一緒にたくさんの発見を楽しみ、感動を分かち合ってくださいましたら幸いです。また、毎日の生活習慣として、「早寝・早起き・朝ご飯」の大切さをお伝えしてまいりましたが、これができて初めて「豊かな体験」が意味を持ちます。1学期に園生活を通して成長されたお子様が、2学期もさらに大きく成長されますよう、ご家庭でも生活習慣にどうぞご留意ください。

保護者の皆様には休園中のご家庭での保育、そして保育再開後の園の対応に、ご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。2学期も子どもたちが園で安心して過ごせるよう、そして一步一步成長していくことができるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。夏期保育には、子どもたちと元気に再会できる事を楽しみにしております。2学期もどうぞ宜しく願い申し上げます。

☆夏祭り

今年度は園児と教職員とで夏祭りを行いました、子どもたちは元気に盆踊りを踊り、年長さんは力いっぱい御神輿を担ぐことができました。保護者の皆様にご覧頂くことはできませんでしたが、年度当初お伝えしましたように、今年度は「例年のように行事ができなかった」と悲観的に捉えるのではなく、日常を積み重ねる中で、小さな活動や行事ができた喜びを、子どもたちや保護者の皆様と分かち合いたいと思います。

先日、夏祭りの様子を動画で配信させて頂きました。一人一人お子様の様子までご覧いただけなかったかと思いますが、後日スナップスナップで画像をご覧いただけます。



セタ

今年はクラスごとに願い事を出しあって短冊を作り、二本の大きな笹に飾りました。例年は「仮面ライダーになりたい」「プリンセスになりたい」「サッカー選手になりたい」などがよく見られますが、今年は「コロナがおさまりますように」「サマーキャンプができますように」「みんなが元気に幼稚園に来られますように」など、子どもながらに現状を捉え希望を見いだす言葉が多く見られました。笹飾りは夏祭りまで飾った後、晴れた日に園庭で燃やし、全園児で天に昇る煙に向かってお祈りをしました。みんなの願いが天に届きますように…



カイコ

幼稚園で飼育しているカイコ。園庭のクワの葉をとってきてあげたり、手に乗せてそのツルツルした肌触りを感じたりしながら、小さな生命を慈しむ姿勢を育んでいます。自然界で育つ野蚕（やさん）に対し、カイコのように人が育てる家蚕（かさん）は、人との関わりの長い歴史の中で文化として育まれてきました。「僕たちの着る服（着物など）の糸を作ってくれるんだよ」等と話しながら、園庭の昆虫とは少し違う身近な生命を感じています。



年中 麦の脱穀

年少の時に種をまき、収穫した麦を脱穀しました。一粒一粒丁寧に手で取り、茶色の麦粒が顔を出しました。次は石挽き臼で粉にします。今年はこの麦で何を作りましょうか？



年長 しろかき～泥遊び

既に年長の田植えは6月に行いましたが、一番上の田んぼは、田植えをせずに「しろかき・泥遊び」用にとっておきました。そこで、少人数に分散しながらしろかきを行いました。田の土を足で柔らかくすることが目的ですが、例年通り、いつの間にか泥遊びに。この後、田植えをする予定でしたが、子どもたちがあまりにも楽しそうでしたので、この面だけはそのままにしておき、2学期以降も泥遊びを行えるように致します！



年少・年中 色水遊び

年少さんの色水遊び。あらかじめ用意した色水を使ったり、クラス前にあるオシロイバナの花で色を出して、混ぜ合わせては色の変化を楽しんでいます。



年中になると様々な種類の草花をすりつぶし、混ぜ合わせ、色や模様、香りの変化を楽しみます。



7月の遊びと生活



年少かけっこ



てっぺん広場で



築山で



突然の雨に、テントで雨宿り。 時にはテントごと移動して戻ってきます。



内科健診、歯科検診。約束を守って受けられました。



園長と虫探し「カナヘビさん触れるかな？」 「ハリガネムシ」自分でこんがらがったね。



「森に棲むヒメネズミの子どもだよ」

「森のおうちに帰ろうね」



運動遊び



赤土斜面で崖登り



泥水遊びは楽しい！



いろいろな野菜の収穫



うさぎのふわちゃんを作りました



森の広場で

巨大ミミズ

誕生会



年中「絵の具でTシャツづくり」



年少「調理室を見学」



年長「ふじの実を中はどうなっているの？」



年長「ひまわりの観察画」



机では手作りのラミネート版を使って活動します。



年少さん大掃除。雑巾も上手に使えています。



年中さん、見事な雑巾絞り！



年長さん、見事な雑巾がけです。

机の裏も！？